

## 地域研究コンソーシアム（J C A S）オンデマンドセミナー

企画責任者：松本邦明（福岡県立鞍手高等学校 S G H課）

【講義テーマ】「東南アジア研究とその手法について学ぶ」

【講義担当者】京都大学地域研究統合情報センター 西 芳実 准教授

【実施日】平成27年8月4日（火）

【場 所】京都大学稲盛財団記念館大会議室

【参加者】福岡県立鞍手高等学校 普通科人間文科コース2年生（40名）

【目 的】

本校は、平成27年度より、文部科学省スーパーグローバルハイスクール（S G H）事業の実施校として指定を受けた。S G Hの取組として、2年生人間文科コースでは、「課題研究」における活動を通して、東南アジア地域に関する研究を行っている。今年度は、対象地域をシンガポール・マレーシアに設定し、「人口問題研究班」「資源・エネルギー問題研究班」「労働問題研究班」「地域活性化研究班」を設け、研究を進めさせている。12月には実際にシンガポール・マレーシアに40名全員が赴き、現地での聞き取り調査や、研究に対するプレゼンテーションを実施し、多様な価値観に触れながら研究論文としてまとめていく予定である。今回のオンデマンドセミナーでは、生徒が研究を進めるシンガポール・マレーシアに限らず、他の地域における研究を参考にし、地域研究に対する視座を養いたいと考えた。そこで、インドネシアの災害対応を中心に地域研究による社会連携に取り組んでいる、京都大学地域研究統合情報センターの西芳実准教授にご依頼する運びとなった。最先端の地域研究の実践に触れ、東南アジアを対象にした地域研究の方法を学ぶことをねらいとしている。

【内 容】東南アジア研究とその手法について学ぶ

- 講義1 「スマトラ大津波が繋いだ世界」～地域から世界を見る目を鍛える～
- 講義2 「映像から読み解く東南アジア」～マレーシア・シンガポール～

午前中は、災害から考える地域と国際協力について講義をしていただきました。現代のグローバルな社会において災害のもたらす影響は、災害が起こった地域だけでなく、様々な形で国境を越えて現れてきます。西先生は「災害から地域や世界を見る」とはどういうことなのかについて二つの災害対応を例に挙げながら説明されました。「災害が何をもたらしたのか」について真摯に地域と向き合うと様々なことが見えてくるということを実感しました。地域研究においては、現場の状況だけで判断するのではなく課題を読み解く力が必要であるということを実感することができました。



午後は、「映像から読み解く東南アジア」ということで、マレーシアの劇映画作家として国際的に知られるヤスマンアフマド監督の制作した映像をもとに講義が展開されました。作品の中に描かれるマレーシアやシンガポールの人々の様子を見ることや、そこに潜む社会課題を探ることは、マレーシアやシンガポールの研究を始めたばかりの生徒にとっては非常に興味深いものでした。短い映像を通してそこに様々な「気づき」や「発見」があり、生徒は面白さを感じていました。「読み解く」レベルに達するには、まだまだ勉強が必要であることや、「目を鍛える」ということの必要性を生徒も実感したようです。



#### ○ 東南アジア研究所図書室での研修



午後の研修では、京都大学東南アジア研究所図書室を訪問し、図書室についての説明を受けました。生徒は東南アジアに関する様々な書物に触れ、その蔵書の多さにただただ驚くばかりでした。日頃からインターネットの情報に頼りがちな生徒にとっては、じっくりと文献と向き合う、一次資料に触れることの大切さを知る良い機会となりました。また、大学での専門的な学びに興味を持った生徒も多く、大変貴重な経験となりました。

#### ○ 講義の振り返り・まとめ



宿泊先では講義の振り返りを行いました。講義の概要、印象に残った言葉、今後の課題研究にどのように活かしていくかについて、クラス全員で共有しました。「私たちは異質な他者と地続きで繋がっている」という西先生の言葉は、12月に実際に海外研修に行く生徒にとっては、強く印象に残ったようです。異文化に飛び込んでいくことに対して不安もあるようですが、「早く実際にシンガポール・マレーシアに行ってみたい」という声も多く聞かれました。今回の講義を通して地域を見る「目」が、講義を受ける前と比べて確実に変化していることを、この振り返りの生徒発表の中で感じました。「数えられないもの」「規格外」のものに意味を見出す。私たちの日常では見られない事柄に目を向け、意味を探る。歴史、背景、現状、経過からメッセージを読み解く。地域に暮らす人々に寄り添って課題に取り組む。今回の講義で学んだことを、これからの課題研究に活かしていきたいと思えます。